858
50

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用

天王寺手引草

卍 りん石のたう　同ろくのたう
卍 四天王寺　同金堂　同塔ノ
卍 同堂塔　同だらに
卍 二月ハ二月ハ　同寺ノ
卍 れん宝義　同ろくろ
卍 三水四石　同てうづ
卍 庚申堂　同仏

縁日
朔日

卍 毎月廿一日ハ地蔵尊の縁日にて参詣の人多し

卍 毎月朔日ハ薬師如来の縁日にて参詣の人多し

普門院

卍 毎月廿三日ハ観音の縁日にて参詣の人多し

食堂

卍 毎月廿三日ハ観音の縁日にて参詣の人多し

卍 寺四ヶ八ヶ所だうりの
まつそでぢやせんとめのそうそん
ふたうこそうもうこそうもうこそう
うじこのひ三そうのようなるうさ
のけとをひおだうふいざんのこ
上のまれいふ
さてみだうのだらうだうのうり
そのまゝへびうりうりいう
もとうぐいをばふくさ上ルそれとご花のそふいうろる
こまつのしんのひそうこ
ふりんとそうのおそうこふりんせいこ
卍 寺六ヶ八ヶ所
四天王ハぶーひそうりそ
四つのふうの四なとのそうりひ
まのふらぬ寺よおいせさ
さてそのまへよいせさ
卍 寺七ヶ八ヶ所
くそゆそこるふ天ぢうのそう
らそとそぢとうそさのお
でんぐく。ひやけぶのゆへ
くやうようそさせ。
ちやうやうのとおうひ
八方ふ八そうのあぢそう。八しうのたちまよ
さてぢうくふおそんさのこ
四寺八うのたらしう四ふ
うぢいたるふる。あまの

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用

あ
ごくう和
やまと屋
びくにやりん
十一面うえん

石神

卍
たむけのこうじ
卍
すじ九二ハたうくぐう
とおくあいとおくあめふるり
とれず一のかうめつう
そのりうりうものたうう
いせたぶんぐうこのいし
てんたうたぶんこのいし
せうこのいしとやうまと
卍
みるこの方ふわいのこうぐ
なそんじそうがうろうろ
卍
すじ十ふそうもなり
卍
すじ十ふそうもなり
卍
すじ十ふそうもなり

之堂數 合三拾八
門數
二十二
樂屋二ツ
錨横二ツ

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用

ようこたまふ
たまわれど
ともびろ
あさごろも
あさつゆの
身もおれど
うらまぐれ
わびぐれん
たらひまろ
きくよつひ
ひまもあり
身もおれど
たくくして
おくくして
おくくいつ

さごもあさごろも
ぜまつまれ
ゆげまつまの
くるあるゆきろ
かよくへてくそ
ちくとまるまの
身もまさぐれこと
あるひはさのりに
まくもぐらふ
みるたつひまき
とんよくもんひの
あまをまくぬ
ぐまんはやまのり
よくうこよより
まぐまれとそへ
人のまをば

あくうこんふと
きこぎんやまかど
めのぐくまちて
きやうくひくよ
ぜよりりふ
みなそくゆく
かもへのぐこ
よくまいきりの
ありきうそよれ
うれのおうが
人ふ物ぐへる
あぐやうふ
ごやうもと
ひそーあ
だうつとうが
ーこげよ

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50　　ガラス使用

浄土六道之絵

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50
ガラス使用

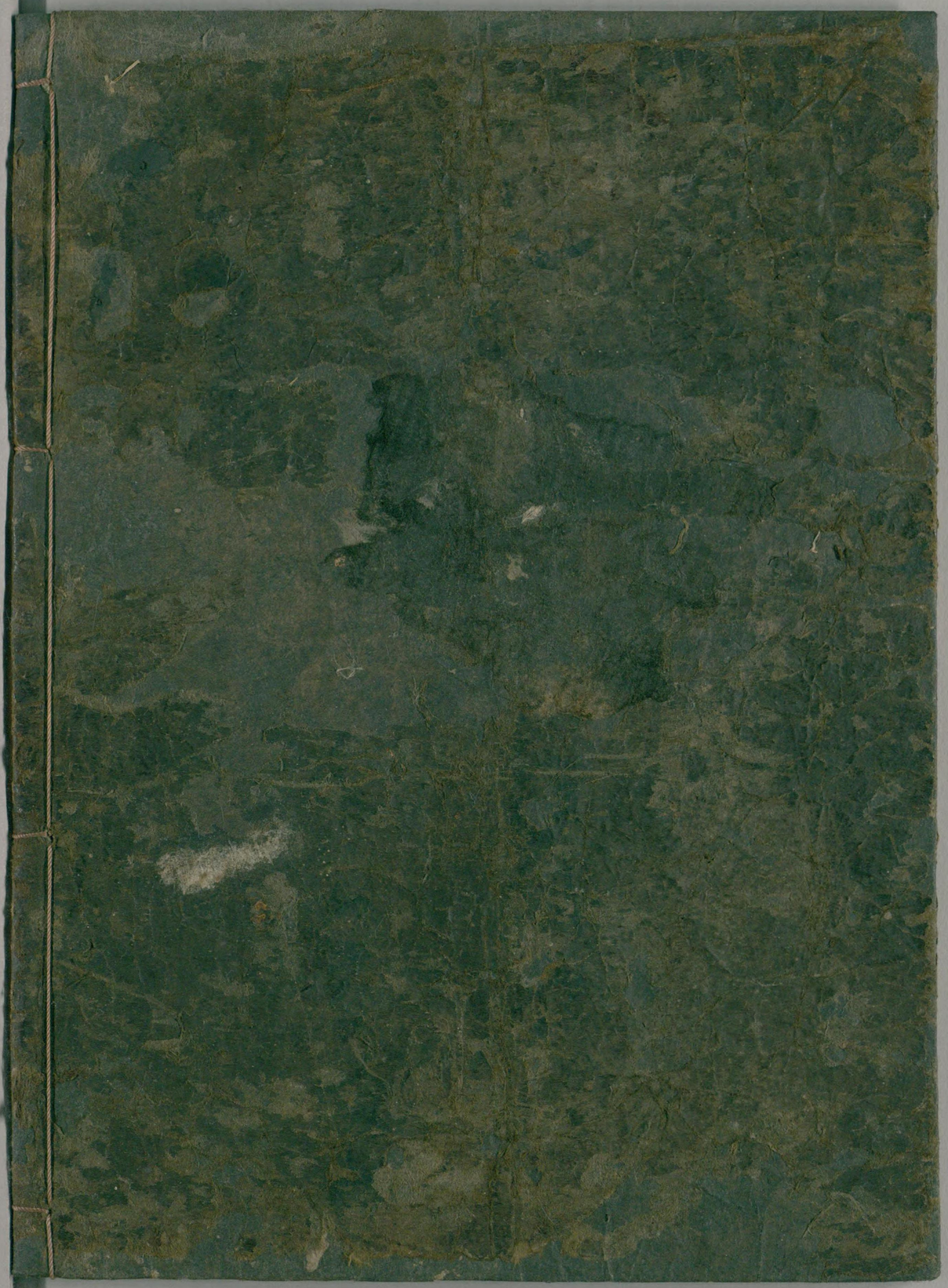
858
和
50

司馬温公六悔

終

国立国会図書館　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『天王寺手引草』　請求記号 858-50

ガラス使用